

令和7年度 第2回 男女共同参画推進委員会 議事録

日時	令和7年11月6日(木) 開会：午前10時 閉会：午前11時45分
会場	蕨市役所 4階 大会議室
出席	足立明美委員長、須賀敬史委員、安藤さゆり委員、鈴木真知子委員、小松崎和子委員、横山直子委員、成田弘子委員 事務局（課長・川邊、係長・庄野）
資料	資料1 蕨市DV対策及び困難な問題を抱える女性支援基本計画 （仮称・素案） デートDV啓発冊子

1. 開会

2. 委員長あいさつ

会議の公開及び傍聴について「蕨市市民参画と協働を推進する条例」に基づき定められた「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」により、この会議の公開を決定し、傍聴にかかる取り決めを行った。（今回の傍聴者は無し）

3. 議題

- (1) 蕨市DV対策及び困難な問題を抱える女性支援基本計画（仮称・素案）について  
事務局から説明

【質疑応答】

(委員) 子どものことなど全体的に関係機関や関係部署等との連携ができてい  
内容となっており実践的で良いと思う。

(委員) 実際に現場で活用できると良いと思う。

(委員) 子どもへの2次被害への支援が配慮されており良いと思う。

(委員) 各機関の連携が分かり、支援者の方も心配なく相談できると思う。

(委員) 運営する側が的確に支援できるよう活用できると良いが、支援する側も  
大変だと思う。

(委員) 計画を策定する際には、計画がどの位進んでいるかなどの数値的な取り  
組み項目の指標のようなものを設定していることが多いと思う。埼玉県  
の配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画の重点施策の中に

例えば、デートDV防止講座の実施年 20 校以上などがあるがこのような数値目標KPIを本計画は設定しないのか。

(事務局) 指標については、本計画の上位計画である「蕨市男女共同参画パートナーシッププラン(第3次)」に「デートDV防止の啓発等の実施事業数」及び「市役所にDVの相談窓口があることを知っている市民の割合」の2つを示しているため重複することや、3年後には、「蕨市男女共同参画パートナーシッププラン」と統合予定であることから、本計画では設定していない。

(委員) DV防止などは、なかなか市民への周知が難しいと毎回感じる。前回の会議でも委員から「デートDV」なんて知らなかったという意見もあった。これまでも周知啓発をしていると思うが、今後の課題だと思う。二次元コード入冊子などで外に出られない方も相談に繋がると良いと思う。

(事務局) 今回、委員の皆様へ中学生や成年式で配布している冊子をお配りしています。冊子の最終頁は、二次元コード入り相談窓口情報を記載しております。また、男女共同参画パートナーシッププラン(第3次)では、デートDV防止啓発の数値目標を年4回としていますので、今年度につきましては、中学生や宿場まつり、機まつり、成年式での配布を予定している。

(委員) 以前、男女平等推進市民会議では、市との協働事業で中学校においてデートDVの授業を3年間実施し、その際にこの冊子ができた。その3年間はデートDV防止について中学生へ啓発ができたが、残念ながら3年間で終わってしまった。起こってしまったDVの対応を支援することも大切だが、元の形に戻すのは難しい。中学生の段階でデートDVとはどういうことなのかなどを知ることが大切だと思う。実際に、講義に参加した生徒から、気づきがたくさんあったなどの感想があったので、中学

生の時代に学ぶ機会があると良いと思う。

(委員) 私は男女共同参画作品募集事業の審査員なのですが、今年度は「暴力をなくそう」というテーマで作品募集を実施し、中学生の応募が 20 作品くらいあった。授業ができなくても、違う形で意識を持ってもらう方法もあると思う。

(委員) 先日の宿場まつりで啓発を行ったが、もらった人はちゃんと見てくれているのかな、と思った。先ほど委員のお話にもあった中学生への講演会のように直接語りかけた方がもっと身に染みると思う。

(委員) 男女共同参画を理解してもらうためにこれまで写真コンテストやひとこまフレーズなどの作品募集事業をやってきたと思う。今年度は計画を策定することから「暴力をなくそう」をテーマにしたのですか、また応募はどのくらいだったのか。

(事務局) 男女共同参画作品募集事業は、令和2年度から5年間ひとこまフレーズの募集を行ってきたところですが、本計画を策定することから今年度はキャラクター募集事業として、テーマも計画に沿ったものにしました。応募は 50 点弱あり、その中で 20 点位が中学生の応募でした。

(委員) これまで中学生の参加はあまりなかったと思うので、若い世代に周知されることは良いことだと思う。

(事務局) 届けたい世代に届き、考えてもらうことが出来たと思うので良かった。

(委員) 近年の状況は分からないが、埼玉県においても女性の性暴力根絶を目指した条例を作ろうという動きがあり、そのプロジェクトは継続されていると思う。県の場合は被害者支援も大切だが、加害者更生についても考えなければいけない、どのようにしていくのかなどを関係団体と協議しながら進めていた。宿場まつりなどで冊子を配布して、一人でも多くの人の目に触れることが大事だと思う。

## (2) その他

(委員) 中学生くらいの多感な思春期にデートDV防止の冊子などで問いかけをすることは大切だと思う。町会が高齢化が進んでいる。町会をまとめている人たちは主に昭和の人たちなので、男はこうあるべきや女はこうあるべきというのがある。今の若い世代がそれを見て町会に入りたくないという問題もあると思う。いろんな意味で男女共同参画について考えていかなければいけないと思う。

(委員) 中学生など若い世代への周知は大切だと思う。昨年、男女共同参画事業でLGBTQに関する体験談の講演会があったが、当事者の方の気持ち分かるなど気づきがあり大変良かった。DVや困難女性については難しいと思うが体験談の講演会などがあると良いと思う。

(委員) デートDV被害については身近にありがちなことだと思う。自分のことが好きだからという思い込みから、「他の人と会うな」「メールをするな」という言葉や、スマホを取り上げるなどの行為で束縛をされることがDVであることに気が付かない。男女の付き合い方について、それはデートDVだ、ということを読子を読んで自ら気づいて欲しい。また、先日、加害者更生プログラムに関する講演会があった。加害者がなぜ暴力を繰り返してしまうのか、などの聞き取りを行っていて大変勉強になった。また、ネットで知らない人と知り合い、手なずける(グルーミング)などの手口を使って性暴力に至ることがある。ネットで一度流れた情報は消しても残り続けてしまう、デジタルタトゥーと言ってインターネット上の入れ墨という。その情報が残ることで、その人の将来の就職などに影響がでることがあるというお話もあった。私が会員である健やかメディア推進会議でも、スマホやタブレットが子ども達の身近になり、性被害も身近になってしまったということが問題となっている。すこやかメディアとデートDV防止の取り組みは繋がる部分がある。色々なところ

で性被害は身近にあることなので、デートDV防止についての周知啓発等の取り組みを進めてもらいたい。

(委員) 先日、2校の小学校の運動会へ行った。子ども達はとても元気があり、なごやかで癒された。小学生のうちからいじめや暴力はいけないことだと先生方から学んでいると思うが、最近の子ども達は心も身体も成長が早いように感じていて、早期のいじめや暴力、性被害への教育が必要だと思った。

(委員) 企業においても、ネット社会が問題視されている部分があると思う。手軽に調べられるのでネットをすぐ使う場合があるが、正しい情報かなどの見極めが大切だと思う。そういう意味でも小さい頃からの教育が大切だと思う。

(委員) 現時点では男女共同参画などという言葉はスタンダードとなっていると思うが、何年か前から性の多様性、性別はグラデーションだという話もあり、県で何か作成する際にも言葉には気を付ける、という観点から言葉には気をつけている。今回の計画にDVの被害者の多くは女性であると書いてありそれは正しいと思うが、逆の場合も出てきているのも確かだと思う。現時点ではこのような計画だが時代の流れとともに少しずつ変わっていき、どういうふうになっていくのかなと思う。

(委員) 少し前まで、イクメンやカジメンという言葉があったが、今は時代遅れで、それが当たり前の時代になっている。これからどんどん社会が変化していく、今まで我慢してきた、色々言えなかった人たちが相談できる所があると知り、相談に行けるようになってきたという現実もある、微力だが私たちも力になりたい。

#### 4. 閉 会